

もみじ

—広島山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 全日本登山大会報告
2. 東京五輪メキシコ選手団交流報告
3. 登山教室(第4回)報告
4. 国体中国ブロック大会報告(速報)
5. インターハイ(全国高校登山大会)報告(速報)
6. 岳連短信

全日本登山大会報告

期日 6月16日(土)～18日(月)

会場 京都府京都市・亀岡市

参加者 勝村博己(個人会員・三原市)

個人会員の勝村博己です。6月16～18日の3日間京都市を中心に開催された第57回全日本登山大会京都大会に参加しましたので報告します。

キャッチフレーズ「おいでやす京都のやま」をスローガンに200名募集、114名が全国から京都府の亀岡市に集合した。

昨年北海道大会に参加して次回が京都大会であることを知った。京都は高い山はないが、<京都一週トレイル>を5コースに分けて参加募集していた。Aコース伏見稲荷大社から清水寺まで7km、Bコース伏見稲荷から銀閣寺まで健脚コース17.4km、Cコース比叡山から大原まで10km、Dコース比叡山から鞍馬まで15.9km、Eコース苔寺から清滝まで12.3km。

私はAコースで参加した。伏見稲荷は毎年お詣りし、熟知しているので全国の人に紹介できると思い、Aコースと決めた。

今回は114名と少なかったため、京都府山岳連盟の活動や、日本山岳協会の活動を知って頂く為に一般登山者に門戸を広げ、一般登山者にも同じコースを歩くという事を実行して下さっていた。中国地方からは島根県浜田から5名、山口県から8名、広島県から1名であった。

12時30分から開会式、モンベルの社長辰野勇氏の記念講演、シンポジウム等セレモニーを終えて、指定の宿泊ホテルに実費でJRで移動した。こういう大会に参加すると意外な人と出会うものだ。開会式で大分から参加された70代の男性と隣同士となったが、ホテルが同じということで会場から一緒に移動した。その時の会話の中で、その人は九州の九重や祖母傾山・霧島の地図を等高線で色分けした地図を作製した有名な後藤利夫さんだとわかった。自分が考えたザイルの結び方など参考になる会話をしながらホテルへ。

翌17日京都駅に集合、24名で実費で稲荷駅まで移動し下車。駅を出ると巨大な鳥居が参加者を歓迎している。ここで2班に分かれる。私の1班は8名で私がガイドをしながら参道を歩く。本殿で手を合わせてから稲荷山へ向う。この時期は参拝者というより海外からの観光客が多い。さすが世界遺産の伏見稲荷大社である。鳥居が続く坂道の参道を京都市内が展望できる四ツ辻まで登り大休止して後続を待つ。これからは本格的なトレイルロードに入る。高級住宅地を抜けて皇室ゆかりの泉涌寺へ。うっそうと茂る木々の中を今

(いま)熊野観音寺の境内を左に見て民家沿いの道を進む。トレイルの道標をたどりながら清閑寺に行くのだが、国道1号線を渡れず、迂回路をくぐって清水山の登り口に出て、ジグザグの道を上り、清水山頂に着

く。ここで昼食をとる。ここでトレイルコースと別れ清水寺へ向けて下る。しばらく下って清水寺の境内に出て解散。

夜の交流会までホテルへ帰る。私は行きたいところがあるので皆さんと別れ、一人でホテルに帰った。ホテルで今日の汗を流し、着替えてからタワーホテルである閉会式と交流会に臨む。交流会には一般参加者も参加した。閉会式で来年開催の岐阜県岳連に大会ピッケルが引き継がれた。交流会で懇親を深め、来年岐阜県大会での再会を誓って 20 時に解散してホテルに戻った。

18 日早朝、浜田山岳会の女性と新潟県から参加の女性の 4 人で東寺に散歩がてらお参りして、ホテルに帰り朝食後自由解散のはずが、8 時前に突然地震に遭遇しました。大阪府北部の地震でした。結局大会後に予定していたプランを諦めて他のホテルに宿泊し、19 日に何とか三原に帰ることができました。また来年岐阜県大会に参加したいと思っています。岐阜大会は乗鞍岳・西穂高独標です。来年の案内を楽しみにしています。

県東部 東京五輪メキシコ選手団との交流報告

6/24 福山市のクライミングジム SORA にて本県のユースを中心とした 12 名の選手および指導者 2 名が交流し、また 7/1 山野峡沢登りなどで福山山岳会会員と交流がありました。

『東京オリンピック事前合宿を受け入れて』

福山山岳会 大田祐介 (写真も)

6 月 21 日から 7 月 5 日までの 2 週間の予定で来日したメキシコ・スポーツクライミングチーム、アルフレッド・ベラスケス メキシコ山岳スポーツ協会会長率いる総勢 13 名、10 代の選手が中心で美男美女揃いでした。24 日にはクライミングジム SORA にて広島県山岳・スポーツクライミング連盟強化選手との交流セッションが行われました。強化選手からは「メキシコ選手は瞬発力がある。身体の動きがなめらか。握力も強い」などの声があり、メキシコ選手からは「強化選手はコースを考えて登っている。お互いレベルアップ

できる」などの声がありました。言葉は通じないものの技術的な良い交流ができていたと思います。

7 月 1 日は福山山岳会のガイドにより県立自然公園「山野峡」龍頭の滝でシャワークライミングを楽しみました。なめ滝の天然の滑り台や滝壺へのダイビングなど福山の自然を堪能していました。午後からは私の別荘でバーベキュー、選手達は山野町の皆さんが山野産のそば粉で作った手打ちそばを初体験、すいか割りなども楽しみました。

帰国時期が豪雨災害と重なり新幹線が動かず無事に帰れるかやきもきしましたが、皆さんまた来年も来たいと大満足で帰国されました。東京オリンピックに向けて福山市のクライミング熱が一層高まったと感じた 2 週間でした。



SORAにて



山野峡・龍頭の滝にて

指導部登山教室報告

第 4 回 2 年生 7/13(金)～16(月)

登山形態：テント泊山行

山城：白峰三山

人数：8 名 (スタッフ含)

今回の 2 年生はテント泊縦走の実践で白峰三山に行つて来ました。直前の豪雨災害の影響で計画変更を重ね現地向かいました。しかし計画通りに実施できず縦走はあきらめました。現地での予定変更は判断がある事なので全員で話をして決めました。

(指導部 森本 覚)

(感想文 登山教室 2 年 神崎 直剛)

『絶景』

広河原インフォメーションセンターに着いて、野呂川越しに雪渓を擁いた目指す北岳がど〜んと私たちに迎えてくれました。

この山は、登山教室の課題である 3000m 級の山への挑戦・1 年間学び努力してきて、又楽しみにしてきた憧れの初アルプス、そして 4 年前に登り登山をするきっかけとなった富士山を眺めながらの縦走、これからどんな景色を見せてくれるのか、夢をふくませながら登って行きました。

ほどなく、振り返れば鳳凰三山が歓迎してくれています、そして眼前には、「おーあれは八本場のコルと雪渓だ」と苦しい登りも気持ちは、ハイテンションになります。小太郎尾根に乗ると前方の景色が開け、大きなカールの仙丈ヶ岳、右には、ピラミッド型の甲斐駒ヶ岳、その右奥に八ヶ岳、振り返れば富士山が北岳の隣にど〜んと姿を現しました。それからは、登るごとに増えて来る山が増え、仙丈ヶ岳右側遠くに槍・穂高の北アルプス「10 月に行くから待ってね」、そして左側に木曾駒の中央アルプスが見えています。

2 日目に登った北岳からは、360 度のパノラマで南アルプスの全容もプラスされ一度に全てを見ることが出来その時の感動は、今日目を閉じてもハッキリと蘇るほど思い出として刻み込まれました。

おまけに、日の出、日の入り、モルゲンロート現象を見ることが出来、お天気に恵まれ最高のひと時を過

ごす事が出来ました。

今回、体調不良で行程を変更しましたが、そのことで 2 年生全体のチームワークがより強く結びつき、これからよりまとまっていて、良かったと思います。

それから、筋肉痛ですが、1 週間大変でした、やはり 3000m この辺りの里山とは違いますね、まだまだ修行が必要です。

(写真提供 久保田 征治)



第 4 回 1 年生 7/21(土)～22(日)

登山形態：テント泊山行

山城：高岳～聖山、掛頭山～臥龍山

人数：10 名 (スタッフ含)

今回の 1 年生は初のテント泊で芸北の山に行ってきました。一度キャンプ地に下りましたが縦走を意識して荷物は残置せずに歩荷して行動しました。テント泊の装備を分担して無事歩くことができました。

(指導部 森本 覚)

(感想文 登山教室 1 年 細田 悦朗)

『初めてのテント泊』

1 年生の登山教室も 4 回目を数え、初めてのテント泊の準備を進めていましたが、直前に西日本を襲った豪雨のため、数名の方が参加を断念せざるを得ない状況での山行となりました。

泊りは山小屋のみでテント泊経験のない私は、装備品を持っていなかったため「シュラフ」やマットの購入と関連知識の習得も兼ね、登山店に数回足を運び訓練に備えました。

シュラフやマットをバックに入れてみたところ、バックがパンパンに張ってしまい、詰込み技術の不

足と思い知りでしたが、当日は水や行動食を減らす訳にもいかずそのまましました。

歩荷重量も共同装備を加え程よい重さとなり、背中に重いものを背負うと何か安心したのは、昔の農作業で、「とんのす」一杯に葉たばこ入れて農業を手伝っていたせいでしょうか。

2日間で4座を登る行程は暑さとの戦いとなりましたが、全員が水分、塩分補給を怠らず、時おり吹く風に清涼感を感じながら、両日とも無事に登頂しました。

登山中は、マムシとの出会いにスリリングでしたが、2日目は危なかった場面もあり、怖いもの見たさで熊も期待していましたが、出会うことはありませんでした。

1日目の山行終了後にロープワーク講習をしていただけ、フリクションノット、8の字結びなど基本を習いましたが、今までロープワークの復習をしておらずスリングの巻き方も雑となり、8月の沢登りまでには特訓しておかないと命に関わると思っています。

テント設営、食事作りも初めてで、特に料理を作る前は、具材がこの量で足りるのか半信半疑でしたが、食べ終われば皆に十分に行き届いており1人当たりのグラム計算、段取りの作成、工夫など担当者の苦心に感心しました。また、今回はキャンプ地に設営したため水の確保に苦労はしませんでした。実際の縦走山行では水の運搬は負担が大きく、軽減のために食器を洗わず拭き取る行為など登山教室で初めて知りました。

夜会は、参加メンバーの経験豊かな話題で盛り上がり、酔いも回ったからにはテント内で熟睡できることを期待していましたが、風によるテントの波打ち音などでよく寝られず、隣で熟睡されている方の姿を見てたくましく思い、寝る技術も必要だと悟っています。

これからの教室はテント泊が多く歩行距離も増えていくので、メンバーの方に迷惑がかからないよう準備を怠らず、皆勤賞を目指してがんばって参加していこうと思います。

(写真提供 森本 覚)



国体中国ブロック大会報告 (速報)

7月20日(金)～22日(日)に山口県セミナーパークにて第73回国民体育大会中国ブロック大会が行われ、本県チームは成年女子3位・少年男子1位・少年女子2位の成績を収め、少年男子と少年女子が10月に福井県で開催される本国体への出場権を獲得しました。

詳細につきましては、次号で報告します。

インターハイ(全国高校登山大会)報告(速報)

8月3日(金)～7日(火)に三重県菰野(こもの)町 鈴鹿山脈で開催されたインターハイ(全国高校総体)登山大会で本県代表の男子修道が1位・女子基町が12位の成績を収めました。修道は3年振り6度目の優勝で、特にこのたびは100点満点の成績でした。

これも詳細につきましては、次号で報告します。

岳連短信

1. 寄贈御礼

三原山の会『筆影』No. 461 (8月号)

福山山岳会『会報』H30. 8月号

2. 訃報

本連盟副会長の野島信隆様(72歳)が8月5日に逝去され、7日に葬儀が行われました。通夜・葬儀には山田会長他多数が本連盟からも参列し、本連盟として献花しました。野島様のご冥福をお祈りします。

3. 豪雨災害関連

このたびの西日本豪雨災害で被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧を願っています。

なお、事務局では本連盟関係者 2 名の被災を把握しております。(竹原山岳会会員様：家屋全壊・避難中、JAC 広島支部会員(呉市安浦町)様：床上浸水)

本連盟では、被災された方へのお見舞金とすべく 9 月末日までカンパを募ります。近々案内を会員様に送りますので、ご協力をよろしくお願いします。

なお、上記 2 名様以外の被災がありましたら事務局までご一報ください。

4. 8～9 月の行事案内

8/11 「山の日」記念全国大会 (大山)

8/11～13 JOC ジュニアオリンピック (富山県南砺)

8/19 自然保護研修会 (比婆山、申込締切 8/10)

9/2 県民ハイキング第 4 回 (通算第 23 回) 螺山～茶臼山 (安佐北区可部町)

9/8～9 中国高校登山大会県予選 (火山～大茶臼山～柚木城山)

9/30 県民ハイキング第 5 回 (通算第 24 回) 小室井山 (廿日市市吉和)

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせください。